

友だち大好き!

今年の4月に友人のお子さんが小学校に入学しました。しかし、入学式を迎えるまでに彼女は、友だち作りがうまくいくだろうか、学校に慣れるだろうか、学校選びに、いろいろ悩みました。そして、彼女の出した結論は、地域の小学校の特別支援学級に通わせることでした。

入学式の数日前に彼女から明るい声で連絡がありました。それは、教室や体育館で事前リハーサルをして下さること。その様子から彼女が入学式を楽しみにしつつも、いかにたくさんの不安を抱えていることに心が熱くなりました。リハーサルを行い安心して迎えた入学式。しかし、当日、リハーサルになかった写真撮影が始まった時、その子は体育館を全力で走り回りました。先生方が止めに入ってくださいどうにか終了。彼女はこれからの学校生活に大きな不安を抱きました。先生方に迷惑をかけているのでは、友達に怪我をさせているのでは、と思いながら毎日学校に迎えに行く彼女。しかし、そんな心配とは裏腹に、その子は「学校楽しい!先生大好き!友だち大好き!」と喜んで毎日登校しているそうです。

障がいの特性や度合いは個人で大きく異なります。この子が楽しく登校できているのは、一人ひとりに目を向け、できないことばかりに注目するのではなく「この子は何ができて、何が苦手なのか。どんな強みや長所があるのか」と、配慮してくれる先生方だからでしょう。「友だち大好き」という言葉に支えられて、彼女が笑顔で安心して迎えに行けるようになる日も近いことでしょう。

(堀内)

乾いて跡の残ってしまったセメント

「ミステリと言う勿れ」は、ご存じだろうか?最近ドラマを観て、ついには原作である漫画を大人買いしてしまった。「僕は常々思っているんですけど…」が口癖で、天然パーマがトレードマークの心理学を専攻する大学生、久能整が主人公。記憶力、観察力に優れていて、矛盾を論理的に突き詰めて、身の回りで起こる様々な事件を解決していく。彼の一言に揺さぶられ、深く考えさせられることが多い。その中でも、子育て中の私には、「子どもって乾く前のセメント」で「落としたものの形がそのまま跡になって残るんですよ」という言葉が胸に刺さった。

「こうあるべき」といった、自分の中の「当たり前」を子どもの「当たり前」にしてしまう。「誰かと比べないで。私は私」という子どもの言葉に、ハッと気づかされる。私の子どもだった頃が重なる。自分も嫌だったはずなのに、大人や親の立場というフィルターを通して、子どもに對峙してしまったことへの罪悪感が膨らむ。私の中の「乾いて跡の残ってしまったセメント」である無意識の偏見や思い込みがどれくらいあるのだろう。ついつい、感情的になってしまうと、言いすぎてしまい、ただの価値観のおしつけだったのではないかと感じたときに子どもの一言で振り返る。自分の「当たり前」を、まずは見直して、冷静に判断することが大事なのだ、漫画に改めて諭される。いつも冷静で、相手に寄り添う、やさしい視点を持つ主人公のように、私もそうありたいと思う。

(加藤)

ココロンセンター ライブラリー 人権問題に関する書籍、まんが、絵本、DVDを入荷しました。貸出を行っています。ぜひ、ご利用ください。

書籍紹介 「認知症でも心は豊かに生きている」

著者:長谷川 和夫 発行所:中央法規出版株式会社

超高齢社会といわれる日本。認知症の最大要因は加齢であることから、2025年には5人に1人、20%が認知症になるという推計もあります。

この本は、認知症治療の第一人者であり、自らも認知症であることを明かした長谷川先生が送るメッセージが綴られています。認知症は、暮らしの障がいであると定義し、「自分が忘れてしまっても、周りの人が覚えているから大丈夫」など、人とのつながりを大事にした言葉がちりばめられています。“認知症が不安なあなた” “認知症になったあなた” “認知症の人を支えるあなた”の心を解きほぐし、前向きに生きる力を与えてくれます。

「ココロンセンターだより」No.95 発行:令和5年12月 福岡市人権啓発センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階
TEL092(717)1237(代表) FAX092(724)5162 TEL092(717)1247(人権啓発相談室)
E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

ココロンセンター 福岡 検索



法務省委託事業

CONTENTS「主な内容」

- 人権総合講座(ココロンセミナー)【後期】 1P
- 人権尊重作品紹介5年度入賞作品 2P
- 人権尊重作品紹介5年度入賞作品 3P
- 人権啓発指導員コラム、書籍紹介 4P



ココロンセミナー

～考えてみませんか?

あなたの人権わたしの人権～

福岡市人権啓発センターでは、人権問題を身近に考えていただくためのセミナーを年6回開催しています。今回、後期3回(1、2、3月)の受講者を募集します。あなたの身の周りにおける人権について学んでみませんか。

回	月日	時間	テーマと演題	講師
第4回	1月20日(土)	14:00～16:00	子どもの人権 愛すべき子どもたち ～子ども食堂から見える子どもの人権について～	NPO法人食育推進ネットワーク福岡 理事長 雪田 千春 さん
第5回	2月22日(木)	19:00～21:00	外国人の人権 子どもからつながる多文化共生	九州大学大学院比較社会文化研究院 教授 松永 典子 さん
第6回	3月16日(土)	14:00～16:00	働く人の人権 ハラスメントのない職場環境にむけて ～パワハラを中心に～	アトリエエム株式会社 代表取締役 三木 啓子 さん

開催時間は、第5回は19:00～21:00、その他の回は14:00～16:00。講演は90分

- 会場 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号 あいれふ10階「講堂」
- 定員等 各回60人 事前申し込み(先着)、受講料無料
- 申込方法 ホームページの申し込みフォームから。または電子メール・FAX・郵便はがきも可。件名「ココロンセミナー第〇回申し込み」とし、氏名・連絡先(電話番号・メールアドレス)を必ず記載してください。

- お問い合わせ 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号 あいれふ8階
福岡市人権啓発センター 事業推進係
TEL: 092-717-1237 FAX: 092-724-5162
E-mail: jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

★講師プロフィール

雪田 千春 さん



「夏休みに子どもの生存確認のため、学校の先生が家庭訪問をする」という話にショックを受け、「ふくおかこどもおにぎり塾」(2015年)、「いたきたこども食堂」(2016年)を始める。たくさんの子どもたちと関わるうち、子どもやその家庭が置かれている状況や地域の方々の思いを知り、フードバンク福岡を設立(2017年)。現在は、コロナ禍の影響を乗り越えるべく、「ふくおかこども食堂ネットワーク」を立ち上げ(2020年)、子ども食堂の支援、そこにつながる子どもたちや家庭の支援を続けている。

松永 典子 さん



九州大学大学院比較社会文化研究院・教授。九州大学・博士(比較社会文化)。高校教諭時代の青年海外協力隊(マレーシア・日本語教師)参加が多文化・多様性の豊かさや楽しさを知る原点となり、日本語教育、多文化共生教育に携わる。大学と地域社会との連携を模索する中で、小中学校への学生サポーター派遣、学校文書の多言語翻訳活動等を行う。編著『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』金木犀舎、2022.2第3版など。

三木 啓子 さん



民間企業、男女共同参画センター等で勤務の後、2005年にアトリエエム株式会社を設立、代表取締役就任。パワハラ、セクハラ、マタハラ、アカハラ、LGBTQ+等のハラスメント防止研修、人権研修、メンタルヘルス研修、アンガーマネジメント、アサーティブ・コミュニケーション、ワーク・ライフ・バランス並びに人材育成事業等を行っている。著書に「考えよう!ハラスメントI・II」「LGBTを知ろう」「セクハラ・パワハラ その現状と防止対策」「職場のハラスメント相談対応術」ほか。

福岡市人権尊重週間 12月4日～10日

令和5年度 人権尊重作品

福岡市人権尊重行事推進委員会(事務局:福岡市人権啓発センター)では、人権尊重週間行事の一環として、人権尊重やさまざまな人権問題の解決に寄与する作品を募集しました。今年度の入選作品の一部を紹介します。

標語代表作

考えて 送信前に その言葉

小学校5年生の作品

ポスター代表作



中学校3年生の作品

入選作品



小学1年生の作品



小学2年生の作品



小学3年生の作品



小学5年生の作品

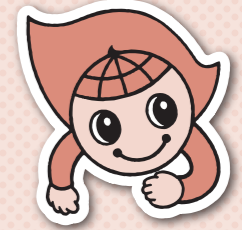
入選作品



小学5年生の作品



小学6年生の作品



小学6年生の作品



中学1年生の作品



中学1年生の作品



中学2年生の作品



中学2年生の作品



中学2年生の作品